

## 2021 年度 日本学術振興会 研究拠点形成事業シンポジウム 開催報告

### ① 2022 年 1 月 13 日 “Zoom symposium of the JSPS core to core program “Neurobiology of neural plasticity based on optical nanoscopy”

COVID-19 の影響で対面のシンポジウムに代わり、zoom での国際シンポジウムを開催した。演者は James Daniel (Max Planck Inst.), Tomoyuki Takahashi (OIST), Yukiko Goda (RIKEN), Stephan Sigrist (FU Berlin), Volker Haucke (FMP), Sila Rizalar (FMP), Stefan Hallermann (Uni Leipzig) であった。各人の持ち時間を若干伸ばし 45 分程度として、時間的に余裕をもった進行と、突っ込んだ議論ができるようにした。また、本年度は事業最終年度で PI 中心の発表でもあり、これまでの事業のまとめという色彩が強かった。シナプスの生化学、分子生物学、電気生理学、遺伝学などの多彩な研究発表がなされた。特にドイツは大きなグループによる総力的な研究が印象的な一方 (Haucke, Sigrist など)、個人ないし少数による研究にも独創的なものがみられた。参加者は合計 100 人前後であり、日独仏米からの事業関係研究室の参加以外にも、日本やデンマークから事業外の研究者の参加 (特に大学院生) があった。

### ② 2022 年 1 月 27 日 “Informal meeting on synaptic vesicle pools”

こちらは①とは補完的に、よりインフォーマルな形で、日米欧の研究者が集まり、電気生理学中心にシナプス生理学のコンセプトに関する議論をおこなった。演者は Henrique von Gersdorff (Vollum Institute), Takeshi Sakaba (Doshisha Univ.), Van Tran (Univ. Paris), Erwin Neher (MPI) であり、合計 30 人程度の参加があった。

